2025年４月２３日　発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻８２２３号
SSTK通信　　１９８３年７月１９日第三種郵便物承認　頒価２００円

SSTK 通信 NO.230



一般社団法人埼玉障害者自立生活協会　第11回総会

2025年5月25日(日) 13時～(12時30分受付)

岩槻駅東口コミュニティセンター　多目的ルームC

★総会記念企画(総会終了後、概ね14:00頃から)

若い衆トーク祭り　～しゃだんの座談会総結集～

2024年度開催された県内各地での若手座談会「若い衆トーク」が総会記念企画として岩槻コミセンに帰ってくる！公開ゆるトークから垣間見れる、これからの私たち…

編集人　一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会

〒３５６－０００６　埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘三丁目１番２４棟―４０３号
Tel 090-7906-9124　　Email jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp
郵便振替：00180-2-566719　または　038　普通貯金　9486343
http://www.saii.or.jp　　FAX　048-737-1489
発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会　川口市芝新町十五-九　アステール藤野一階

2025年4月23日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年７月１９日第三種郵便物承認

優生保護法訴訟　学習会に参加して

埼玉障害者自立生活協会会員　梅澤博史

埼玉障害者自立生活協会の案内を受けて、同会の主催する「障害者制度改革 埼玉セミナー part16」に参加しました。それは、今回のテーマの「優生保護法訴訟 7.3 判決」に大いに感心があったからでした。
なぜなら、優生保護法により本人の同意がないままに優生手術を受けさせられた被害者が身近に居て、こんなに個人の尊厳を損なう施策が長年にわたり行われていたのは何故だろうということや、その賠償はどうなるのだろうという疑問を持っていたので、偶然にもこのセミナーは学ぶ好機でした。

そこでは、優生保護法の法律上の判断、被害者への国の謝罪と賠償を勝ち取るまでを、優生保護法被害者全国弁護団共同代表である新里宏二弁護士に講演していただき学ぶことが出来ました。

確かに、優生保護法の公布された 1948 年頃の日本は、政府や軍部の犯した敗戦処理と混乱した社会のなかで、街には戦災孤児・浮浪児があふれて、その保護と救済という問題や、さらに、外地から 600 万人から 700 万人もの復員兵・引揚者の受け入れという問題もあって、食料の不足は深刻であったようです。そのような社会の背景が在ったとしても、議員立法による全会一致で優生保護法は成立したと学び、このような人権を否定する法律が簡単に成立したことに驚きました。これに反対や抗議する動きは、世の中で無かったのだろうか？という疑問が起きているので、この成立の経過については調べてみたいと思いました。それに、優生保護法の成立から、1996 年に母体保護法に改正されるまで 48 年もの長きに渡り、この法律が続いたことも驚きでした。もっと早くに改正されていれば、私の身近に居る被害者は手術を受けずに済んだかも知れません。

そして、国家賠償を求める闘いについては、2013 年に被害者の相談を受けてから 2024 年の最高裁判所大法廷判決で全面勝訴を勝ち取るまでの、長く困難であった法廷闘争を時系列に沿ってお話いただきました。そこでは、始めに試みた政治的解決は進まなかったことを聞いて、与野党共同で人権問題として取り上げるべきなのに、政治家は誰のために働いているのだと怒りを覚えました。政治が動けば解決は少しでも早まったのではないでしょうか。法廷闘争では、2019 年の仙台地裁をはじめとする各地の地方裁判所で敗訴判決が続いたそうで、司法の壁も高いと思いながら聞

いていました。だが、当事者と弁護団はもちろんのこと、有識者、支援団体や個人、そしてマスコミなどの支援があって、皆で諦めることなく闘争を続けたことが素晴らしいと感じました。この力が大阪・東京の高等裁判所で被害者勝訴の判決を勝ちとり、2024 年の最高裁判所大法廷判決での全面勝訴を導いたのでしょう。

この最高裁判所の判決で、優生保護法は、憲法第 13 条（人権保障の基本原則）・第 14 条（法の下の平等）に違反であると認め、さらに、「国民に憲法上保障されている権利を違法に侵害するものであることは明白であった」として立法行為自体を違憲としたこと、そして立法行為にかかる国の責任は極めて重大で、すべての優生手術被害者に謝罪と補償を命令した被害者全面勝訴の判決という、すばらしい判決が出されたと思いました。



私はこれまで、優生保護法は人権を奪う法律が存在していたという知識しか無くて、とくに司法の場で争われた事柄はとても興味深く聞かせていただきました。
良い機会を与えていただきありがとうございました。
最後に、私の知人の被害者には、先日、行政から連絡が届いていました。

2025 年 3 月 30 日

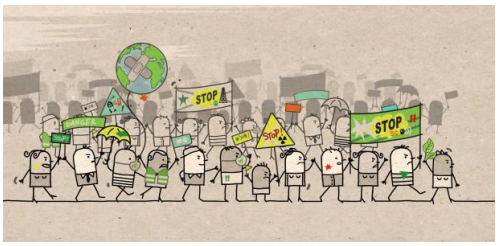
SDF の集会で報告してみて・・・　　森住由香里

結構たくさんの人がいてびっくりしました。私なりに面白おかしく話したつもりですが、皆さんは私の話を聞いてどう思ったでしょうか。
私の前に２人話していました。１人は精神の方で、ダジャレも織り交ぜながら話していてとても面白かったです。私は喋るのが好きですが相手の話を聞くことも楽しいと思うように、皆さんにも私の話を聞いて面白いと思ってくれていると嬉しいなと思いました。
権利擁護などは私にとって切っても切れない話でした。自分の親との親子関係、そして自分と子どもの親子関係を今後どうしていくか悩みながら毎日過ごしていますが、今はどうしようもできないことです。
そのような話を色々な場所でしていて、人に話すと少しストレスが解消されて楽になりました。話している時にあちこち話がとんでしまいますが、今後上手く話していけるようになるといいなと思います。
私が喋ることでみんなにこのようなことがあると知ってもらえて良かったと思います。
障害を持っていなくても生きにくい人はいると思います。
障害者の権利だけじゃなくて、人が１人生きていく上でみんなに当てはまる権利を尊重して自分らしく生きられることが出来たらそれがベストだと思います。
場数を踏んでいきたいと思うのでこのような機会があれば呼んでもらえたらと思います。

2025年4月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年７月１９日第三種郵便物承認

障害者」が生まれるから原発反対するって、そうじゃないだろう!と思って（ぺんぎん通信より）

菊地　一範



毎月、反原発のデモに行っています。14 年前福島の原発事故に多くの人が反対していたのに今じゃ本当に少人数です。私はずっと熱心にやってきたとは言えません。原発反対の「中味」にしっくりしない思いがあったからです。

福島事故の後、新聞で知った川口での会合で、中年の女の人の「放射能で障害児が生まれるのが恐い」との言葉に、司会が大きく頷いて話を進めました。私は嫌な気持ちでした。

二十代に施設のボランティアに通い重い障害のある子どもたちと知り合い、大人の「障害者」との付き合いもあった私は、「障害児」ができるから原発に反対という考え方に「そうじゃないだろう！」という思いを言葉にできないまま落ち込みました。あの頃ネットでは「奇形児」が生まれるとの書き込みもあったとか。反原発のうねりの中で、生命や健康への不安・恐れが、前から広く社会にあった偏見に染まった障害・「障害者」像をイメージして膨らんでいったと私は思います。それは、「悪気」は無くても「障害者」を否定する気持ちを増幅するものだった。私は反原発運動への「不信感」を整理することができず、福島事故への大きなデモに参加する気になれませんでした。

その頃（その後も）重い障害のある沖田博さん（故人）の介助をしていた私に、彼は「天然自然の『障害者』と公害や原発による障害を分けて考えたい」と言いました。二人であああだのこうだのと話しました。私がたどり着いたのは、「命はさずかりもの」だということ。 私は特定の宗教を信じていませんが、すべての生命は人智を超える存在からのさずかりもの。その生命を破壊する原発や原爆は、人智を超える存在、乱暴に言えば神仏を畏れないふとどきなものです。（このあたりでシラケたら読むのをやめてください。）天然・自然の生命は「障害」あろうがなかろうが、人智では計り知れないものです。必要な存在としてさずけられたものです。原発や原爆によって「障害」を受け生きながらえた生命には、人智を超える存在からの意思と力が働いているとしか思えません。私は頭デッカチ。中途半端に。生命のこと、自分の中でまだ整理できていませんが、反原発です。

今、茨城県東海村にある東海第二原発（埼玉から約 100km）の再稼働に反対して、東京秋葉原にある日本原電前で毎月第一水曜日の抗議行動に参加しています。東海第二原発は運転開始から46年の古い原発です。14 年前の東日本大震災で津波で被災。去年再稼働を予定したものの、防潮堤工事でコンクリートが入っていないという欠陥工事をやったり、ボヤを出したり、今年の２月には原発の中心の中央制御室で火事と、危険極まりない原発です。
茨城で生まれ育った私には、東海第二原発動かすな！の思いは切実なものです。

2024年4月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年７月１９日第三種郵便物承認

でるでるCLUB　in

深谷・渋沢栄一ゆかりの地めぐり



2024年12月14日(土)10時30分に、JR深谷駅改札口前に、集合して、写真撮影をして始まった。

コミュニティバスの車イスの定員から、八木井雄一さんと渡辺さんは、居残りとなった。行動組10人は、バスに乗って、まず、渋沢栄一記念館に行った。記念館のガイドの人の説明が、面白かった。並木組６人と森住組４人は、別々にお昼の場所を探したが、麺屋忠兵衛で一緒になった。森住組は、予約していて、並木組は、飛び込みであった。そこで、深谷名物・煮ぼうとうを食べた。猫が２匹居ついていた。みんな、かわいい、かわいいと人気であった。その後、みんなで10人で、旧渋沢邸「中の家」(なかんち)に行って、見学した。見学後にわかったが、ここで旧渋沢邸「中の家」(なかんち)で、将棋の王将戦第5局が、行われることになっていた。藤井聡太王将が、ここで戦った。

（報告　並木）

追加意見　　一般社団法人 埼玉障害者自立生活協会理事 下重美奈子

埼玉県単独事業である 地域活動支援センターの補助金見直し問題について

昨年 6 月、地元市町村から各地域活動支援センターに対して、域活動支援センターサービス向上型補助金について県が見直しの意向であり、そのための市町村ヒアリングが行われるとの連絡がありました。

また、昨年 9 月 6 日に行われた県との話し合いの席でも、県障害者支援課担当者は補助金の見直しの方針については「有識者会議は知事直轄の組織で、こちらで最終決定が出てしまったら、福祉部としてはそれに従って業務を行う。変えられない」と回答し、補助金の廃止を含めた見直しが既定路線であると述べました。昨年 12 月の県議会でもこの問題は取り上げられました。

この県単独事業である地域活動支援センターを行なっている団体は県内で 18 団体あります。そこで、当協会の関係団体が、この問題についての情報共有・意見交換の場を持ちたいと思い、県内の域活動支援センターサービス向上型運営団体にアンケート（12 団体から返信あり）をとると同時に、オンラインでの意見交換の声掛けをし、2 月 6 日に行われました。10 団体がオンライン会議に参加をし、その中で、地域活動支援センターの存在意義について話しました。会議に参加した団体のほとんどが地域デイケア事業からの移行で少人数で活動しているところでした。

参加した団体やアンケートの意見の一部として、

・地域活動支援センターは退院したばかりの方、長年引きこもっていた方、中途視覚障害が社会との接点を持つ最初の一歩として大事な役割を果たしている。
・その役割を担っていた市のソーシャルクラブがなくなったこともあり、近年そのニーズはますます高まっているように感じています。
・事業自体がなくなってしまったらその人たちが安心して通える場所を確保することも難しくなる
・ヒアリング時の市の回答は、県の補助金が廃止となっても、地域に必要なものであれば、同等の金額になるか不明
・市の事業として継続はすると言っても、あくまで市の障害福祉担当課の返答で、財政担当課からみると、県予算の付かない事業を今後も継続することは大いに危うく感じる。
・他の事業で同様のケースがあったと記憶している。単に県補助金廃止の話ではなく、事業の継続にかかわってくると思う。
・埼玉県、市町村から福祉サービス内事業への移行を進めている状況があることも懸念の材料
・地域活動支援センターは他の制度では通い切れない人が集まってきている場所
・制度の隙間を埋めることが県の役割であることをきちんと理解をしてほしい。
・地域活動支援センターの存続をお願いしたい。

（これは 2 月 12 日に行われた埼玉県障害者施策推進協議会に提出したものです）

2025年4月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年7月１９日第三種郵便物承認

一般社団法人 埼玉障害者自立生活協会
第11回定期総会
議 案 書

総 会 次 第

1.開会
2.理事長あいさつ
3.来賓あいさつ
4.総会役員（議長団・書記・資格審査委員・議事録署名人）の選出
5.資格審査
6.議事審議
- 第1号議案　 2024年度　事業報告
- 第2号議案　2024年度　決算報告
- 第３号議案　2025年度事業計画(案)
- 第４号議案　2025年度　予算(案)について

7. 閉会の言葉

とき：2025年5月25日（日）13時～14時
（受付開始　１２時半から）

ところ：岩槻駅東口コミュニティセンター　多目的ルームＣ

〒〒339-0057 埼玉県さいたま市岩槻区本町３丁目１-１
TEL.０４８-７５８-6500

ZOOM　　ミーティング ID: 733 415 6655 パスコード: 7uJLu3

2025年4月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年7月１９日第三種郵便物承認

はじめに

みなさん、こんにちは。

今年の11月には第22回障害児を普通学校へ・全国連絡会　全国集会in埼玉「であえないのはなぜ？」が開かれ、当協会も共催団体としていろいろと準備をしているところです。

障害児教育を取り巻く環境は、おととしに国連から「総括所見」の勧告をされたにもかかわらず、依然として分離教育が主流となっています。特別支援学校が増設され、障害児を抱える親さえも地域の学校ではなく、はじめから特別支援学校を望んでいるといいます。今回の全国集会ではこういう問題を抱えながら、「ともに学ぶ」にはどうすればよいのか考えていきたいと思います。

という私ですが、川口で生まれ育ったにもかかわらず、東京・板橋の養護学校に入学しました。入学の前年に養護学校義務化が施行されたのもあって、その学校で小中高と12年間も過ごしてしまいました。その影響で地元川口には誰一人として友達がいませんでした。その後大学に進んでも、どうやれば友達と付き合えばいいのかわからず、結局お客様扱いとされてしまいました。こうした苦い経験から、全国集会の場では、小さな頃から障害がある子とない子が一緒にいることの大切さを伝えていきたいと思っています。

また私の人付き合いの下手さは、父が亡くなり一人暮らしが10年経った今でもちっとも変わっていません。毎年10月ごろになるとヘルパー事業所から「年末年始はどう過ごすの？」と聞かれます。そもそも「実際に毎朝毎晩ヘルパーを派遣している事業所から、なぜこんな質問をするのだろう」、と自分ではピンときませんでした。そこで、ねこのての詳しい人に聞くと、「八木井くん、少しは私たちのことも考えて。ヘルパーも正月ぐらいは休みたいのよ。朝晩とはいかないまでもたとえばお昼前の1時間ならどうかな」という意味だったようです。

そんな思いで言っていたとはつゆ知らず、私はただ「お正月はヘルパーが入れないのか」としか思わず、今年のお正月は元日だけヘルパーに頼らず自分一人だけで過ごすことにしてみました。

実際にやってみると、朝とお昼はトースターでお餅を焼き、夜にはスマホで宅配ピザを頼み、そして水だけで洗い物を済ませるなど、楽しみながらも何とか一人きりの元日を乗り切ることができました。でも「地域でともに」を掲げている社団の代表理事がこんなにも人の気持ちがわからないのか、と我ながら呆れているところです。

障害のあるなしにかかわらず、自分を知ってもらうためにはある程度の場数が必要なのかもしれません。

そのためにはみなさん、どんどん外に出ましょう。

令和7年5月25日
(一社)埼玉障害者自立生活協会
代表理事　八木井雄一

2025 年 4 月２３日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983 年 7 月１９日第三種郵便物承認

第１号議案　2024 年度事業報告

共に育ち共に生きることを基盤とし、障害者の自立生活が可能な地域社会の創出を目的とする

１：県内団体及び個人の連携のための事業　（内部的な個人の動きの連携）

当協会は共に生きることを基盤としながら、障害者の自立生活が可能な地域社会を作っていけることを目的とし、2024年度は制度と生活のずれや狭間を拾い集めるために以下の活動を行った。その情報は交渉や施策推進協議会に地域での生活として伝えていった。

・入院時の介助保障を考えるチームの発足

制度上は利用できるはずの入院時のヘルパー利用だが、実際には入院先の医療機関から様々な理由で拒否される問題について、経験者を中心に「考えるチーム」を発足。ミーティングを 10 月 22 日、11 月 26 日、1 月 22 日、2 月 19 日の計 4 回開催した。

・若い衆トーク（若手座談会）の開催

社団関係団体の若手の交流を復活させていくことを目的に、「しゃだんの座談会　若い衆トーク」を開催。7 月 16 日（センター21・ふじみ野市）、8 月 8 日（あぐり・さいたま市）、10 月 3 日（ノイエ・さいたま市）、11 月 28 日（ねこのて・川口市）、3 月 7 日（いいもんズ/いものこ作業所・川越市）の計5カ所で交流。その報告は通信に掲載した。

・地域活動支援センター補助金廃止問題への対応

地域活動支援センター（サービス向上型）補助金の見直し方針が、県・有識者会議で示されたことを受けて、地活の必要性を訴えていく運動をふらっと（新座市）とパタパタ（春日部市）の両センターが呼び掛けて開始。12 月県議会の一般質問で取り上げられたことで県の姿勢に変化が見られ、全地活を県が改めて訪問することとなった。2 月 6 日に県内地活 10 団体によるオンライン会議が開催され、情報交換と県への要望書提出の方針が確認された。

共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な

2.　調査研究事業

１）埼玉県庁内「福祉の店 アンテナショップ かっぽ」と「かっぽ運営協議会」

財政的なご協力のお願いを当協会の会員をはじめ埼玉県で社会貢献を行っている事業所に送付し、かっぽ総会までに目標額の 150 万円の寄付がよせられ、あらためてかっぽを支えてくださる人たちに感謝をした年となった。

拠点である常設の店については、店番団体が苦労をして関わっている反面、短時間でのかかわりが増えている。かっぽフェスタやイベントの拡大のため、支援課が県内の事業所にメールを送るなどの協力を得ながら今年度は進めることができた。新しく 17 団体がかっぽフェスタに出店した。

今年度受けたパルシステムの助成金を活用し土・日のイベント参加に人を雇うなど、協力者を増やした。常設の店以外の場での販売活動、競輪場（大宮・西武園）、七夕フェスティバル（さいたま市）、ふれあいピック秋季大会（熊谷市）、教育産業フェア（さいたま市）、WITH　YOU フェスタ（さい

たま市）、かっぽフェスタ in 知事公館などに参加した。また、そこで知り合った事業所等の品物で注文販売等を試みた。

福祉サービスの利用者をはじめさまざまな障害者が国連総括所見が示す「開かれた労働市場」の職場に参加し、共に働く職場に変えてゆくための調査研究の一歩として、かっぽが県庁内職場体験事業のコーディネートを受託した。

受入先	参加事業所	参加人数	実習日数
秩父地域振興センター	希望者なし		
自然の博物館	自立工房山叶本舗	1名	3日間
行田浄水場	希望者なし		
人事課	百石琴菜・千純	2名	3 日間(2 人合わせて)
教育局総務課	ウェルビーチャレンジ大宮東口センター	1名	3日間
川越比企地域振興センター	ウェルビーチャレンジ大宮東口センター	1名	3日間
障害者福祉推進課	晴れ晴れ	2名	6日間(3日ずつ)

＊ウェルビーチャレンジ大宮東口センター・晴れ晴れは初めての参加

３：普及啓発事業

障害者制度改革埼玉セミナー・part16

２０２５年3月１５日に岩槻駅東口コミュニティーセンターで開催、優生保護法裁判の弁護団共同代表の新里宏二弁護士をまねき、「優生保護法裁判7．３～完全勝訴とこれから」をテーマに話していただいた。

でるでる CLUB

新型コロナウィルスが落ち着き、インフルエンザなどの感染症は、増えたが、でるでる CLUB を開催した。 実行委員会 4 回、下見 1 回で、12 月 14 日（土）に、「深谷・渋沢栄一ゆかりの地めぐり」を行った。実行委員を含めて、12 名の参加があった。3グループに分かれて、楽しみ、参加者の交流が深まる機会となった。

重度訪問介護従事者養成研修

県内団体の介助者不足に対応し、「地域で共に生きる」視点からの介助者養成をしていく必要性から、当協会による重度訪問介護従事者養成研修の開催の準備を進めた。3 月 11 日に準備会を開催した。

ゆめ未来フェスティバル

いきいき埼玉フェスティバルとの合体でのこども夢未来フェスティバル２０２４は 2024 年 8 月 24 日（土）に、伊奈町の埼玉県県民活動総合センター（けんかつ）で、リアルで行った。赤ちゃん、こど

もが、お父さん、お母さんと一緒にいっぱい来場した。。毎年通路で行っていた「ユポコの将棋対局室」を、他の団体やグループと一緒に、部屋の中で行った。実行委員会3回、振り返り会1回に、参加した。

4. 県内の関係各機関との連携・調整、情報提供、相互連携等の事業

1）公的な委員会

今年度も第七期埼玉県障害者支援計画を元に、当協会の委員は B チーム「障害者の地域生活の充実、社会参加の支援。障害者の就労支援」の会議に参加した。

今までの埼玉県障害者施策推進協議会本会議が6月と 10 月と 2 月に開催された。2月の本会議では、問題となっている県単独事業であるデイケア事業を利用している状況についての現状報告を提出した。

ワーキングは以下の内容で 7 月と 11 月にそれぞれ 2 回出席し、1月のワーキングは体調を崩し欠席したが、第 8 期計画に向けて意見交換をしていた。

共生社会づくりを目指す心のバリアフリーハンドブックが埼玉県障害者福祉推進課より発行された。「彩の国いろどりライブラリー」は数名の登録者があり1名講師があったと報告があった。

2）分け隔てられず共に学び・育つことを支援する連携活動

国連障害者権利委員会の総括所見が出されて2年半を経過しているが、国や県は特別支援教育（分離教育）から変わらず、特に県内に置いては特別支援学校の増設が進んでいる。

2025年11月に開催予定の「障害児を普通学校へ・全国連絡会　全国交流集会 in 埼玉」の共催団体として実行委員会に参加し準備に協力してきた。

「サイタマおしゃべり会」は全国交流集会の実行委員会・実行委員会事務局会議の後に行われて情報交換をした。11月のプレ集会などを機に就学・進学の相談は増えてきて、3月末に行われた「春の相談会」では6家族・個人の参加があった。

「どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会」として取り組んでいる高校問題県交渉（9月、1月）に参加した。「地域で生活し、共に学ぶことの大切さを共に確認する」に始まるこれまでの確認があいまいにされてきているので、きちんと確認することになった。

「埼玉障害者市民ネットワーク」の「共に学ぶ教育の推進に向けた共同研究会」（8月、12月、3月）に参加し、共に学んでいくための基礎的環境整備や合理的配慮について県教育局三課（義務教育指導課、高校教育指導課、特別支援教育課）も交えて意見交換した。

『「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会 in 旭川』（10月5・6日）に参加した。

3）埼玉障害者市民ネットワークとの連携活動

2025年度も、ネットワーク合宿や総合県交渉など積極的に協力し参加した。

ネットワーク合宿は6月22日・23日に国立女性教育会館で「共に働くは幻想か！」をテーマに名古屋から共同連代表の斎藤縣三氏に報告していただいた。

総合県交渉は8月22日と9月6日の2日間行われた。

４）SDF（埼玉障害フォーラム）

コロナで休眠中だった SDF は、3年ぶりに学習会を開催した。
2025年2月28日に埼玉県障害者交流センターで「障害の社会／人権モデルの実現」をテーマに佐藤久夫社事大名誉教授を招き講演してもらった。埼玉からの発信のところでは、当協会からは一人暮らしをしている若手の会員から、家族との関係、一人暮らしでの困りごとや楽しさなどを報告した。

5. 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的達成に必要な事業

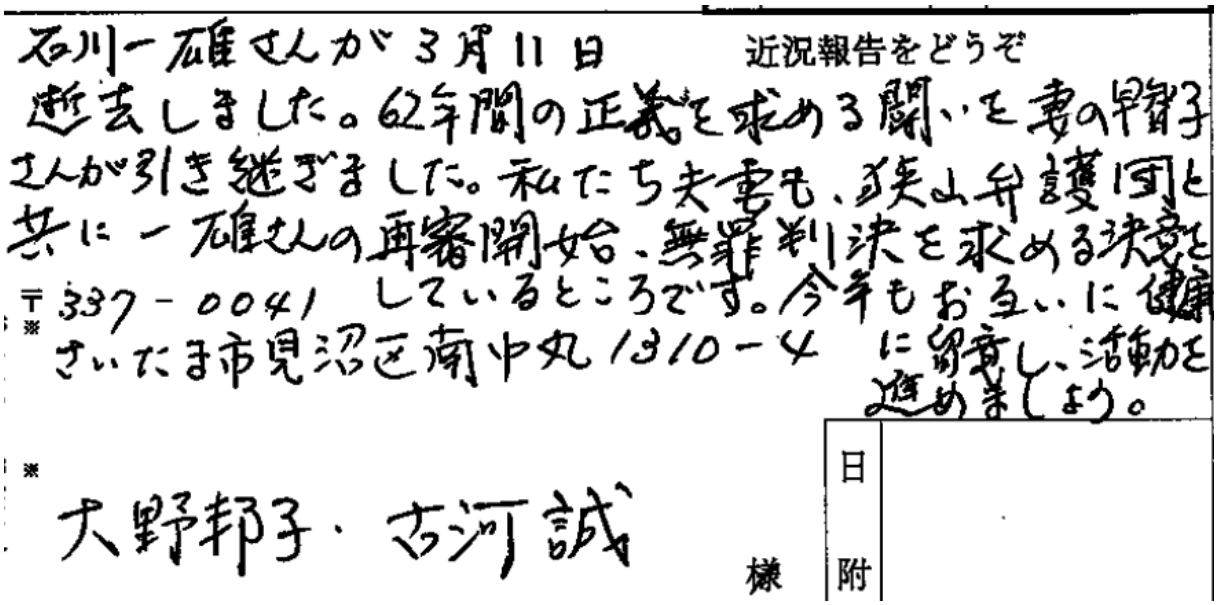
1)理事会・事務局

常勤ではないが会計や HP 担当を業務委託しているように、事務局の仕事の一部を業務委託した。その結果１:県内団体及び個人の連携のための事業 （内部的な個人の動きの連携）で報告されているように、「入院時の介助保障を考えるチーム」を発足することができた。また、「若い衆トーク（和解て座談会）の開催」「地域活動支援センター補助金廃止問題」について当協会以外の県内の団体と情報交換を持つ場に参加するなど、いままでにない活動を行うことができた。

まだ、一昨年から課題となっている「重度訪問介護者養成研修」の具体化に取り組むこともできた。新たに事務局に関わる人材も少しずつ増えている。

第 10 回定期総会を 5 月 26 日に行い、出席者全員の声を聴くことができ、2024 年度の活動に反映した。

会員からのお便り


石川一雄さんが3月11日　近況報告をどうぞ
逝去しました。62年間の正義を求める闘いを妻の智子さんが引き継ぎました。私たち夫妻も、狭山弁護団と共に一雄さんの再審開始、無罪判決を求める決意を
〒337-0041　しているところです。今年もお互いに健康
※ さいたま市見沼区南中丸1310-4　に留意し、活動を進めましょう。
※ 大野邦子・古河誠
様
日
附

2025 年 4 月 2 3 日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983 年 7 月１９日第三種郵便物承認

第２号議案　2024 年度　決算報告

2024年度決算　2024年4月1日～2025年3月31日

	科目	2024年度決算	2024年度予算	適用
収入の部	受取会費	508,000	455,000	
	運営協力金	53,000	27,500	
	受取寄付金	194,560	151,115	
	受取入会金	1,000	1,000	
	小計	*756,560*	*634,615*	
	雑収入	52	2	ゆうちょ利息
			0	
	小計	*52*	*2*	
	受取民間団体助成金	0	300,000	
			0	
	小計	*0*	*300,000*	
	事業収益			
	啓発事業2(イベント総会)	15,000	30,000	総会後・埼玉セミナ・でるでる
	研修事業	0	300,000	20,000*15人(重度訪問介護養成者研修)
	小計	*15,000*	*330,000*	
	今年度収入合計	*771,612*	*1,264,617*	
	前年度繰越金	596,277	596,277	
	基本財産から			
	収入合計	1,367,889	1,860,894	

支出の部	事務局費			
	委託料	437,600	550,000	会計・HP・連携事業
	総会費	8,620	30,000	会場費・お車代
	消耗品費	5,665	30,000	
	通信運搬費	82,784	100,000	HP/ネット・携帯電話・ZOOM
	会議費	300	5,000	
	旅費交通費	0	30,000	
	印刷製本費	34,060	100,000	通信印刷代含む
	租税公課	30,000	35,000	県民税・登記申請。証明書
	雑支出	1,430	5,000	
	小計	*600,459*	*885,000*	
	事業支出			
	啓発(イベント等)事業	108,087	100,000	セミナー等お車代・資料代他
	研修事業	0	300,000	重度訪問介護者養成研修
	連携事業 補助金支出	400,000	400,000	かっぽ支援
	小計	*508,087*	*800,000*	
	今年度支出合計	*1,108,546*	*1,685,000*	
	予備費	259,343	175,894	繰越金
	支出合計	1,367,889	1,860,894	

2025年４月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年７月１９日第三種郵便物承認

2024年度 財 産 目 録

2024年4月1日現在

一 資産の部		
Ⅰ.流動資産		
1 現金及び預金		
（1）現金	28,281	
（2）預金		
①振替口座　郵貯銀行	108,548	
③定期預金　武蔵野銀行武里支店	1,002,698	
④ゆうちょ銀行	122,514	
流動資産　計		1,262,041
Ⅱ.固定資産		
1 有形固定資産		
2 基本財産		
3 その他の固定資産		
（1）出資金		
		0
資産合計		1,262,041
二 負債の部		
Ⅰ 借り入れ金		
未払い金（電話等）		
電話代（2024年度分）	17,649	
2024年度県民税	20,000	
SSTK2024年度分支払い	4,080	
負債合計		41,729
正味財産		1,220,312

貸借対照表（2025年4月1日）

借方							
科目	2024年度末	2023年度末	増減	科目	2024年度末	2023年度末	増減
流動資産				流動負債			
現金預金	1,217,232	1,566,920	▲ 349,688	未払い費用	44,809	0	44,809
（うち定期利息）						0	0
				次期繰越活動増減差額			
				次期繰越活動増減	1,217,232	1,566,920	▲ 349,688
資産の合計	1,217,232	1,566,920	▲ 349,688	負債の合計	1,262,041	1,566,920	▲ 304,879

2025年4月２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年7月１９日第三種郵便物承認

監査報告書

2025年4月26日

一般社団法人埼玉障害者自立生活協会

監　事

私は、2024年度（2021年4月1日から2025年3月31日）における理事の職務の執行について監査を行いました。その結果について、以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、関係書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当法人の理事等から、職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

2. 監査の結果

(1)事業報告及びその付属明細書は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。

(2)理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

(3)当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の決議の内容は相当です。

(4)計算書類とその付属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しています。

以上　坂口佳代子

2025 年 4 月２３日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983 年 7 月１９日第三種郵便物承認

第３号議案　2025年度事業計画

共に育ち共に生きることを基盤とし、障害者の自立生活が可能な地域社会の創出を目的とする

１：県内団体及び個人の連携のための事業　（内部的な個人の動きの連携）

「重度訪問介護」は重度の身体障害者だけではなく、知的障害者・精神障害者も対象となっているにもかかわらず、実際に受けている人は少ない状況である。当協会は障害の種別にかかわりなく地域での生活を作っていけるよう活動をしている。今年度行う重度訪問介護者養成研修では、目の前にいるさまざまな障害を持つ人と共に、当協会ならではの研修を行えるようにする。

昨年からはじまった地域をつなげていく活動「入院時の介助保障を考えるチーム」を発足することができた。また、「若い衆トーク（若手座談会）の開催」「地域活動支援センター補助金廃止問題」を、今年度も続けていく。

共に育ち共に生きることを基盤とする地域社会と障害者の自立生活の創出に必要な

2.　調査研究事業

１）埼玉県庁内「福祉の店 アンテナショップ かっぽ」と「かっぽ運営協議会」

今年度も、パルシステムの助成金が受けられることとなり、昨年から土・日の様々な場所でのイベント参加に人を雇うなど、協力者を増やしていく。

福祉サービスの利用者をはじめさまざまな障害者が国連総括所見が示す「開かれた労働市場」の職場に参加し、共に働く職場に変えてゆくための調査研究の一歩として、今年度もかっぽが県庁内職場体験事業のコーディネートを受託できるよう努める。かっぽの総会は、職場体験実習に参加している人と店番団体がつながるような総会にする。

世の中が変化しているのと同じようにかっぽも変化している。ここ数年はできることは何でもやろうという方針で、県内物産を扱った外のイベントに参加したりいろいろなことにチャレンジした。その中で、今年はアンテナショップかっぽが、県庁にあるという利点と障害を持つ人と一緒に働くということを、店舗を拠点として展開できるように形を変えていけるかを関わっている人たちと話し合いながら進めていく。

３：普及啓発事業

今年も「障害者制度改革埼玉セミナー」を、総括所見と日々の活動との関係を確認していく内容で企画する。

でるでる CLUB では今まだ外出や集団で、活動しづらくなっているが、少しずつ、新しい暮らし方へと変化する中、今年度は、新しい試みとして、平日計画する。また、こども夢みらいフェスティバルの実行委員会から参加していく。

4. 県内の関係各機関との連携・調整、情報提供、相互連携等の事業

１）公的な委員会

施策推進協議会で検討する課題について、上記１の「県内団体および個人の連携のための事業」と連携し、当協会の関係団体で行っている事業や活動の中で出ている問題点を抽出して委

員会に提案をしていく。
「彩の国いろどりライブラリ」 障害者体験型の福祉教育だけではなく、障害当事者を講師とし、共生社会を実現して行く事業である。当協会としても障害当事者を通して共に地域で暮らしている講師を派遣していける様取り組んでいく。

2） 分け隔てられず共に学び・育つことを支援する連携活動

国連障害者権利委員会の総括所見に対し特別支援教育を続けると公言した文科省は、あくまでも分離教育を推し進めようとし、県は特別支援学校を次々と増設している。

障害者権利委員会は、インクルーシブ教育はインクルーシブな社会を実現するためのものとしている。埼玉県も目指す方向は「共に」であるとし通常学級で共に学んできた実績もあるので、さらに地方自治体でできることを取り組んでいくよう働きかけていくことが重要である。関係団体と連携して下記のことを取り組んでいく。
・「みんな一緒に・埼玉連絡会」や「どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会」、また、「埼玉障害者市民ネットワーク」の「共に学ぶ教育の推進に向けた共同研究会」で取り組む話し合いや活動に参加・協力していく。
・2025年11月22日・23日岩槻駅東口コミュニティセンターで開催予定の「障害児を普通学校へ・全国連絡会　全国交流集会 IN 埼玉」に共催団体としてその準備に協力し、集会に参加していく。

3)埼玉障害者市民ネットワークとの連携活動

ことしも埼玉障害者市民ネットワークと連携して合宿をおこなう。また、総合県交渉の要望書作りやチンドンパレード、総合県交渉や交通アクセスなどの企画にも協力していく。

4)SDF

2025 年度も県内各団体と連携して学習会等を行っていく

5. 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的達成に必要な事業

1） 理事会・事務局

オンラインを利用した理事会や会議が増えているが、できるだけ顔を突き合わせながらの場を大切に、今年度もオンライン会議を取り入れるなど理事や会員が参加しやすい環境を作っていく。

今年度は県内で音楽や文化的な活動している障害当事者のグループを呼ぶなど、さまざまな障害を持つ人が参加できるような企画を行えるように努める。

第 11 回定期総会を 5 月 25 日に行う

2025 年度は以下の役員・事務局体制で進めていく

理事　　猪 瀬　 佳 子　NPO 法人　のらんど（さいたま市）

2025 年 4 月 2 3 日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983 年 7 月１９日第三種郵便物承認

神 田　正 子　一般社団法人　みっくすびーと（さいたま市）
瀬 井　貴 生　NPO 法人 とことこの家（所沢市）
下重　美奈子　NPO 法人　障害者支援センター21（ふじみ野市）
野 島　久 美 子　埼玉障害者市民ネットワーク（春日部市）
八 木 井　雄 一　NPO 法人 リンクス（川口市）
吉 井　真 寿 美　一般社団法人 英の樹会（坂戸市）
監　事　坂 口　佳 代 子　NPO 法人　めだか（草加市/2021 年～2024 年）

事務局
事務局長：下重美奈子　大坂富男　山下浩志　竹迫和子
中山佐和子　増田純一　並木理　森住由香里　辻浩司　今井和美

今後のスケジュール

かっぽフェスタ
5 月 14 日（水） 15 日（木） 11 時～15 時　埼玉県庁　みどりの広場

第 22 回障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会
実行委事務局会議　**5月20日（火）1時30分～　県庁職員会館1階談話室**

ネットワーク合宿（日帰り）を行います。
第1日目：6月10日（火）13：30～16：30
岩槻駅東口コミニティーセンター多目的ルーム C
第2日目：6月24日（火）13：30～16：30
浦和コミニティーセンター第15集会室

第 22 回障害児を普通学校へ・全国連絡会全国交流集会
第6回実行委員会を**6月29日（日）1時30分～　岸町公民館第1会議室**

総合県交渉
第1日目：8月21日（木）10：00～16：30（途中休憩あり）
埼玉会館7B 会議室
第2日目：9月5日（金） 13：30～16：30
埼玉会館3C 会議室

2025 年４月２３日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983 年７月１９日第三種郵便物承認

第４号議案　2025年度　予算

2025年度会計予算　2025年4月1日～2026年3月31日

	科目	2024年度 決算	2025年度予算 （案）	適用
収入の部	受取会費	508,000	500,000	
	運営協力金	53,000	50,000	
	受取寄付金	194,560	150,000	
	受取入会金	1,000	4,000	
	小計	*756,560*	704,000	
	雑収入	52	50	ゆうちょ利息
	小計	*52*	50	
	受取民間団体助成金	0		
	小計	*0*		
	事業収益			
	啓発事業2(イベント総会)	15,000	30,000	総会後・埼玉セミナ・でるでる
	研修事業	0	1,500,000	30,000*50人(重度訪問介護養成者研修)
	小計	*15,000*	1,530,000	
	今年度収入合計	*771,612*	2,234,050	
	前年度繰越金	596,277	258,343	
	基本財産から			
	収入合計	**1,367,889**	2,492,393	
支出の部	事務局費			
	委託料	437,600	200,000	会計・HP・連携事業
	総会費	8,620	60,000	会場費・お車代
	消耗品費	5,665	20,000	
	通信運搬費	82,784	100,000	HP/ネット・携帯電話・ZOOM
	会議費	300	5,000	
	旅費交通費	0	100,000	1000円×10人×10回
	印刷製本費	34,060	100,000	通信印刷代.研修資料他含む
	租税公課	30,000	105,000	県民税・登記申請。証明書他
	雑支出	1,430	2,000	
	小計	*600,459*	692,000	
	事業支出			
	啓発(イベント等)事業	108,087	100,000	セミナー等お車代・資料代他
	研修事業	0	1,300,000	重度訪問介護者養成研修
	連携事業 補助金支出	400,000	400,000	かっぽ支援
	小計	*508,087*	1,800,000	
	今年度支出合計	*1,108,546*	2,492,000	
	予備費	259,343	393	繰越金
	支出合計	**1,367,889**	2,492,393	

2025 年 4 月 23 日発行　毎月 12 回（1 と 3 と 5 と 7 の日）　通巻 8223 号
ＳＳＴＫ　　1983 年 7 月１９日第三種郵便物承認

2025 年度　一般社団法人埼玉障害者自立生活協会会員新規･更新のお願い

日頃より、当協会の活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。当協会も一般社団法人に移行して 11 年目を迎えました。

年会費　個人　4,000 円　団体 10,000 円　賛助会員 10,000 円です
ゆうちょ銀行
　他金融機関からの振り込みは
【店名】038　【店番】038　普通　9486343

会員の皆様には、機関誌通信をお届けいたします。
郵便振替口座への振り込みは下記貼付の用紙をご利用ください。
（とりはがすとき用紙の破産に注意してください）

2025 年度会費納入ありがとうございました。
相原忍様　大野邦子様　田中美恵子様　橋本直子様　古河誠様

2025年4月　２３日発行　毎月12回（1と3と5と7の日）　通巻　８２２３号
ＳＳＴＫ　　1983年7月１９日第三種郵便物承認

令和６年度　一般社団法人埼玉障害者自立生活協会会員の皆様

会員の皆様には、機関誌通信をお届けいたします。

年会費　個人　4,000円　団体10,000円　賛助会員10,000円です
ゆうちょ銀行へ　他金融機関からの振り込みは
【店名】038　【店番】038　普通　9486343

2024年度会費納入

ありがとうございました(敬称略)

会沢完・相原忍・朝日雅也・新井利民・荒井義明・有山博・市原光吉・伊藤峰子・猪瀬佳子・今井和美・今井教男・内野かず子・梅沢博史・大坂富男・小田真・大野邦子、小川満・小野達雄・荻野幸子・小田原厚子・小田原道弥・門坂美恵・神田正子・北村文子・木村俊彦・九石智子・後藤美智子・小林史子・坂口佳代子・坂口鶴子・佐藤征治郎・自治労越谷市職員組合・柴田澄江・下重美奈子・須藤勇一・瀬井貴生・関啓子・高橋儀平・高橋幸江・高柳俊哉・武井英子・竹内善太・竹迫和子・田島玄太郎・田中美恵子・辻浩司・土橋俊二・友野由紀恵・中山佐和子・並木理・野島久美子・橋本直子・羽田亮介・林まり・原和久・半田清雄・樋上秀・平塚正樹・平林小太郎・藤田行敏・柊崎京子・古河誠・細川律夫・本間亜貴代・前田直哉・増田洋介・増田純一・水谷淳子・森住由香里・八木井雄一・山下浩志・吉井真寿美・吉田久美子・吉田もも・正木敬徳・吉原広子・ふくしネットにいざ・移送サービスネットワーク・協働舎レタス・GE ひまわり・生活ホームみどり荘・二人三脚・とことこの家・GIL ひこうせん・所沢ファントム・(一社)みっくすビート・キャベツの会・さやまのぺんぎん村・川瀬クリニック・遊 TO ピア・くまのベイカーズ・小原基郎
新会員ありがとうございます
福島里美

運営協力金・寄付ありがとうございました

相原忍・石井樹章・今井和美・小川満・大野邦子・小原基郎・栗原彬・斎藤はつえ・坂口鶴子・柴田澄江・鈴木倫子・瀬井貴生・関啓子・田島玄太郎・並木理・羽田亮介・柊崎京子・古河誠・平塚正樹・

振込先:
郵便振替　00180-2-566719　他行からは　ゆうちょ　038　普通 9486343

2025年1月25日現在・行き違いがありました場合はご容赦ください。

二〇二五年　四月二十三日発行　毎月十二回（一と三と五と七の日）　通巻番号八二三号　一九八三年七月十九日第三種郵便物承認
編集人（一社）埼玉障害者自立生活協会　発行人・埼玉県障害者団体定期刊行物協会　川口市芝新町十五-九　アステール藤野一階　頒価二百円

出会えないのはなぜ？

第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉



日時：2025年
11月22日（土）、23日（日）

22日（土）
全体会：13:00～15:30
分科会：16:00～18:00
交流会：18:30～20:00

23日（日）
分科会：9:00～10:45
全体会：11:15～12:30

会場：岩槻駅東口コミュニティセンター

大宮駅から普通11分、急行8分
東武アーバンパークライン岩槻駅徒歩１分

連絡・問い合わせ先
Email:donokomo1987@yahoo.co.jp
090-4938-8689（大坂）
048-942-7543（竹迫）

主催：障害児を普通学校へ・全国連絡会
　　障害児を普通学校へ・全国連絡会　全国交流集会 in 埼玉実行委員会
共催：埼玉障害者市民ネットワーク/（一社）埼玉障害者自立生活協会/埼玉高等学校教職員組合/埼玉教職員組合
　　/埼玉教育労働者組合/みんな一緒に・埼玉連絡会/どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会
後援：日本教職員組合/埼玉県/埼玉県教育委員会/さいたま市/さいたま市教育委員会/
　　DPI 日本会議/ピープルファーストジャパン
協賛：坂戸たけとんぼの会/共育（ともいく）の会/NPO法人のらんど/埼玉県移送サービスネットワーク/TOKO/
　　さやまのペンギン村/誰もが共に生きる地域をめざすぺんぎん村/キャベツの会・新座共育研究会/地域活動
　　支援センターめだか工房/NPO 法人とことこの家（所沢）

編集人　　一般社団法人・埼玉障害者自立生活協会　SSTK 通信ＮＯ230 号　　頒価 200 円
通信編集部　〒３４４－００２１埼玉県春日部市大場６９０－３
谷中耳鼻科内　電話・ＦＡＸ　048-737-1489
郵便振替：00180-2-566719　または　038　普通貯金　9486343
E-mail: jirituseikatukyokai@wing.ocn.ne.jp　　http://www.sail.or.jp/